

DSM、第3四半期決算を発表

ライフサイエンスとマテリアルサイエンスの両部門好調、3億1500万ユーロの EBITDA を達成

- 2014年第3四半期では、継続事業の金利・税金・償却前利益（EBITDA）は3億1500万ユーロを達成
- 既存事業において前年同期と比べ5%の増益
- ニュートリション部門のEBITDAは2億2500万ユーロで、好調を維持
- パフォーマンスマテリアル部門のEBITDAは、9100万ユーロで、前年同期および前期と比べ増加
- 第3四半期の営業活動によるキャッシュフローは3億100万ユーロ
- 2014年通年では、現在の市場予想に沿った内容になる見通し

ライフサイエンスとマテリアルサイエンスのグローバル企業である DSM 社は、2014 年第 3 四半期の継続事業の金利・税金・償却前利益（EBITDA）が 3 億 1500 万ユーロ（前年同期：3 億 3100 万ユーロ、前期：2 億 9300 万ユーロ）であったと発表しました。

DSM 社 CEO 兼取締役会長 Feike Sijbesma（フェイク・シーベスマ）のコメント；

第 3 四半期は、前期と比べてキャッシュフローが改善し、好成績を収めることができました。ニュートリション分野では、同期後半におけるビタミン E の価格圧力の激化などの課題がありましたが、弾力のあるビジネスモデルとバリューチェーンで築いた確固たる市場でのポジションが、前年同期比からの改善につながりました。パフォーマンスマテリアル分野においては、効率化と原価管理の継続に集中したことが功を奏しており、EBITDA 増加に寄与したすべての部門の業績を嬉しく思います。

不安定な経済状況と消費者の購買意欲の低下が広がり続けると、市場に悪影響を及ぼします。また、第 3 四半期においては、為替レートが業績に良い影響をもたらしましたが、為替変動は不確かなものです。そのため、DSM は、外部環境に左右されずにニュートリションとパフォーマンスマテリアル部門を成長させるためのビジネス戦略を徹底していくとともに、ポリマー中間体部門と合成樹脂部門において戦略的アクションを続けていきます。また、オペレーショナル・エクセレンス（業務プロセス改善による競合優位性）の確立や業務効率化にフォーカスすることで、利益やキャッシュフローの増加に努めていきます。最終四半期に対しても、DSM のパフォーマンスは、現在の市場の期待と一致していけると思っています。

2014 年度の見通し

不安定な経済状況と一般消費者の購買意欲の低下が広がり続けると、市場に影響を及ぼす。第 3 四半期においては、いくつかの為替レートが業績に良い影響をもたらしたが、為替は不安定な状況です。予期せぬ事態がおきない限り、DSM は、市場の期待に応える軌道に乗っているといます。

本リリースに関するお問合せ先

ディー・エス・エム ジャパン広報事務局（アズ・ワールドコム ジャパン株式会社内） 担当：水谷、吉本
TEL：03-5575-3221 / e-mail：atsutake@w-az.co.jp（水谷）、yoshihiko@w-az.co.jp（吉本）

ディー・エス・エム ジャパン 株式会社 担当：大木
Tel: 03-5472-1866 / e-mail: Nahoko.ohki@dsm.com

<参考資料>

DSM – Bright Science. Brighter Living.™

DSM 社は、科学をベースとして健康、栄養、材料分野で活躍しているグローバル企業です。ライフサイエンスとマテリアルサイエンスにおける独自の技術を組み合わせることで、経済的繁栄、環境問題への取り組み、そして社会の発展を促進し、DSM と関わる全ての人々にとって持続可能な価値を創造します。また、DSM は食品や栄養補助食品、パーソナルケア、飼料、医療機器、自動車、塗料、電気・電子機器、ライフプロテクション、代替エネルギー、バイオベース素材などのグローバル市場において、顧客企業の業績向上・維持に貢献できる革新的なソリューションを提供します。年間の純売上高はおよそ 100 億ユーロ、社員数は 24,500 名で、NYSE Euronext に上場しています。

詳細については www.dsm.com をご覧ください。

* 本リリースは 2014 年 11 月 4 日に DSM 社から発表されたプレスリリースを抄訳したものです。

将来予測に基づく記述

本プレスリリースには、将来予測に基づく記述が含まれています。これらの記述は DSM 経営陣による現時点での期待、推定、予測、および現時点で当社が入手可能な情報に基づいています。これらの記述には、予測が困難な特定のリスクと不確実性が含まれることから、DSM はその予測の実現については保証しません。また、DSM は本プレスリリースに含まれる記述を更新する義務を負いません。

